

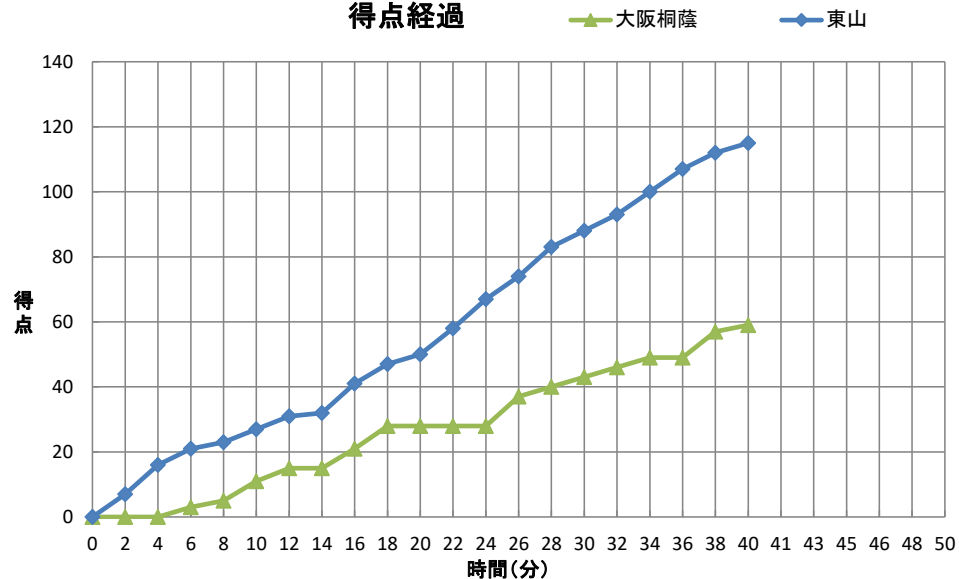


令和4年度  
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子		2月18日		18:22 開始														
準々決勝		滋賀ダイハツアリーナ		B														
大阪桐蔭 59		<table border="1"> <tr><td>11</td><td>1st</td><td>27</td></tr> <tr><td>17</td><td>2nd</td><td>23</td></tr> <tr><td>15</td><td>3rd</td><td>38</td></tr> <tr><td>16</td><td>4th</td><td>27</td></tr> </table>		11	1st	27	17	2nd	23	15	3rd	38	16	4th	27	115		◎ 東山
11	1st	27																
17	2nd	23																
15	3rd	38																
16	4th	27																
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則					
00	和田 真宙	4	0	2	0	0	* 4	佐藤 友	33	0	16	1	0					
* 0	浜尻 伊織	4	0	2	0	3	* 5	瀬川 琉久	9	1	2	2	1					
1	小野 朔之介	12	2	2	2	1	6	淡路 輪	10	0	4	2	3					
* 8	愛島 晟嘉	4	0	1	2	1	7	十川 虎之介	0	0	0	0	1					
10	長谷川 博道	-	-	-	-	-	* 8	小泉 広翔	8	0	3	2	1					
* 11	高橋 彩斗	3	1	0	0	2	9	竹内 龍ノ介	2	0	0	2	1					
17	片山 遥暉	-	-	-	-	-	10	瀧川 隼汰	0	0	0	0	4					
* 18	坂東 健佑	10	3	0	1	3	11	伊計 叶貴	5	1	1	0	1					
20	盛永 和希	6	0	2	2	3	* 12	飯田 流生	7	1	2	0	1					
22	長谷川 琉輝	2	0	1	0	1	13	原 晃生	3	1	0	0	1					
24	阪中 海璃	0	0	0	0	0	14	藤原 洋輝	5	1	1	0	1					
* 27	前田 梗太	4	0	2	0	1	* 15	ナトウリ オンケン ベナミネ	10	0	5	0	0					
30	プライス 陸斗	-	-	-	-	-	16	小野寺 星夢	10	2	2	0	1					
71	上野 終哉	14	3	1	3	2	17	松島 慎弥	3	1	0	0	0					
88	小澤 諒	-	-	-	-	-	18	南川 陸斗	10	1	3	1	2					
コーチ	青木 徹					0	コーチ	大澤 徹也					0					
Aコーチ	和久津 和洋						Aコーチ											
合計		63	9	13	10	17	合計		115	9	39	10	18					
主審: 伊藤 亮介																		
副審: 池嶋 一幸																		
副審: 陳 海登																		

得点経過



CTO	1・2P	3・4P				OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	4:10	:	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	:	:	:	:	:	:	:	:	:

〔戦評〕

大阪桐蔭(大阪)と東山(京都)の対戦となった準々決勝。  
 第1Q、大阪桐蔭#0#8#11#18#27、東山#4#5#8#12#15でスタート。序盤、両チームゾーンディフェンスを展開する。東山ゾーンディフェンスからの素早い速攻や、#4を中心にミドルショットを沈め連続得点で流れを掴む。大阪桐蔭たまらずタイムアウト請求。その後大阪桐蔭は#18のアウトサイドシュートを皮切りに、得点を重ね対抗する。終盤も東山のゾーンディフェンスは緩まず、大阪桐蔭のミスを誘い、得点を重ね、東山が11-27とリードして第1Q終了。  
 第2Qの立ち上がり、東山はマンツーマンディフェンス、大阪桐蔭はゾーンディフェンスから入り、両チーム粘り強いディフェンスを繰り返す。大阪桐蔭#11のアウトサイドシュートや、#1のバスケットボールカウントで得点を重ねる。一方東山は、粘り強くリバウンドに絡み、セカンドチャンスを得点に繋げた。終盤、東山は再びゾーンディフェンスに変え、#12のカッティングをはじめ、連続得点により流れを掴む。大阪桐蔭は、#71の3Pでの得点をし、その後もアウトサイドシュートを狙うも、決めきれず、流れに乗れない。東山が28-50とリードを保ち、第2Q終了。  
 第3Q、立ち上がり両チームゾーンディフェンスから入る。東山、激しいプレッシャーを与え、大阪桐蔭のミスを誘う。#15のオフェンスリバウンドから得点を重ね、流れを掴む。大阪桐蔭#71、#18を中心に1対1から攻め込む。終盤、大阪桐蔭オールコートゾーンディフェンスによりリズムを変え、#1を中心に得点を重ねる。東山が43-88とリードし、第3Q終了。  
 第4Q立ち上がり、東山変わらずゾーンディフェンスから速攻を中心に得点。終盤、両チームマンツーマンディフェンスに切り替え、大阪桐蔭はオールコートの粘り強いディフェンスから、#11のアウトサイドシュートをはじめ得点するも、東山が終始優勢にゲームを進め、東山が59-115で勝利した。

戦評: 福田 遼

記録:

八幡工業高校